

## 須之内玲子助教授のご退職を祝して

社会福祉学科 学科長 木 村 真理子

須之内玲子先生は、本年度3月、選択定年制によりご退職されることになった。須之内先生は、1994年に社会福祉学科の教員として就任され、実習関係の演習科目、児童福祉領域の実習、3年生4年生のゼミをご担当いただいた。

須之内先生とは、3年前に私が本学社会福祉学科教員として就任した時にお会いしたのがはじめてである。社会福祉学科ご在職中、須之内先生は学科授業のほか、生涯学習センターで、こどもの活動や家族の相談事業などにもあたられ、その活動は大変幅広く、また情熱的でもあった。先生の働くお姿からは、社会福祉学科ご就任以前、長期在職された本学附属の家庭福祉センター(みどりの家)でのいきいきとしたお仕事ぶりが拝察された。また、現在の社会福祉学科にあつて須之内先生は日本女子大学や社会福祉学科の生き字引のようなかたで、これまでの大学や学科の歴史を折りにふれてお話になられ、私にとっては歴史を学ばせていただくことが多かった。

社会福祉学科で学ぶ学生は、自らの内的成長を大学での学びに重ね合わせて理解することが多く、この意味で、児童福祉領域での実践、実習、演習に大きな関心を寄せる者が少なくない。本学では社会福祉士の受験資格取得を目指す学生のうちの相当数が毎年、児童福祉領域での実習を希望している。須之内先生は、児童福祉領域の実習指導者として、遠くの機関にも労をいとわず足を運んでくださり、機関や実習現場の指導者との連携、調整においてスタッフとの綿密な関係を保ってくださった。また、実習生の事前のカウンセリングや実習前の指導、実習中の指導、さらに事後の指導において、長年の児童分野での経験と技術、そして情熱を傾けてくださった。先生の熱意に満ちたお働きによって影響を受けた学生は大変多いと実感している。

ご退職後、須之内先生は大学よりもさらに広い場で、児童福祉領域での実践、スーパービジョン等にあたられるとうかがっている。先生の今後のさらなるご活躍に期待し、まずは、大学でのお仕事を終わられるにあたって、お疲れ様でしたと申し上げたい。そして、今後のご活躍を心からお祈りいたします。

2006年 3月